

# 第二の故郷を求め、未開の大陸に架けた虹

明治の与論はチフスやコレラ、天然痘などの悪疫で千数百人を超える死者を出しました。さらに度重なる台風や干ばつによる食料不足。集団移住を余儀なくされた島民は、「第二の故郷」を求めました。

昭和7年、日本の陸軍部隊「関東軍」によって現在の中国東北部に建国された満州国。当時の日本は世界恐慌のあおりを受け、深刻な経済不況に陥っていました。とくに農村経済を支えていた養蚕業は大打撃を受け、農家は借金を背負い、町や村も多くの負債を抱えていました。

農村地域の経済再建、都市部の失業者対策として、昭和11年から本格的に進められた「満州農業移民百万戸移住計画」。移民による満州国の経営、農村地域の過剰人口問題の解決、疲弊した農村経済の立て直し、食料増産なども目的とされ、20年間で5百万人の移住を目指し、政府は国策として押し進めました。

しかし、その背景には満州国の支配や防衛といった軍事的な目的もあり、日本の戦況悪化や、ソ連軍侵攻など、結果として約27万人の開拓団のうち8万人以上が亡くなったと言われています。



Interview 盤山自治会 山田 榮一 自治会長

3歳で与論島から満州へ移住。敗戦後、田代盤山へ姉2人と入植した。現在は自治会長を務め、開拓団の歴史を語り継ぐ。

## 「食料増産、お国のために」 第二の故郷を求めた苦渋の決断

与論島は奄美諸島で一番小さな島で、高台でも標高90mと平らな島です。山や川はなく、周囲が約23kmと車なら30分ほどで1周できます。

「船からだど分りにくい、飛行機から見ればどれだけ島が小さいかよく分かる」と話す山田榮一さんも、与論から満州へ移住した開拓団の一人。その割に昔から人口が多く、口之津や三池に千数百人を移住させた明治の集団三池炭鉱移住後も、減るどころか増え続け、昭和10年代には人口が8千人を超えていました。村当局が三池に続く「第二の集団移住」を考えていた頃、国の手によって本格的に進められたのが満州移民



昭和56年に、田代入植35周年を記念して発行された「盤山開拓三十五年の歩み」。開拓当時の思いを受け継ぐため、先遣隊長の手記や当時の写真も掲載している。

入植記念日の7月18日に毎年集まり黙とうを捧げている。「今年は新型コロナの影響で集まれなかった。来年は入植75年目。夏に向け準備を進める」と榮一さん。



写真は入植70年の式典で撮影したもの

## 移住した翌年に迎えた日本の敗戦

計画でした。その頃の農村は不況のあおりで生活が苦しく、都会へ出た若者も失業して帰ってくる時代。耕地面積の少ない与論島民は、政府から「満州へ行けば広大な土地を分け与える。渡航費用も出す」と進められ、第二の故郷を求めて分村移住という苦渋の決断を強いられました。

与論開拓団が満州に入植したのは昭和19年の春から秋。国策として押し進められた「満州開拓集団移民」が始まった昭和7年が第一次試験移民だったことから、与論開拓団は12年も経過してからの開拓団でした。翌年8月に日本は敗戦を迎え、満州を追われる歴史からみても、与論開拓団はあまりに「遅すぎる開拓団」だったのです。

しかし、これだけ遅い入植の割に受入体制は整っておらず、住宅はおろか、衣類や食料にも不自由していました。飲み水は、濁ったため池から汲んだ水をろ過したもので、塩分も多く不衛生な環境。「食料増産。お国のため——」の美名の割には、戦時中とはいえ、あまりにひどい受入体制でした。



盤山公民館に続く道路沿い約2kmに植栽された1万2千本を超えるアジサイ。開拓団の一員として故有馬功氏が、盤山を訪れる人たちの心を和ませたいと植え始めた。

入植35周年記念事業で建てられた記念碑。公民館敷地内の小高い丘に公園を整備し、慰霊碑も建てられた。満州開拓から盤山入植までの歩みや、第13次与論開拓団の名前が刻まれている。



## 錦江町と与論町 姉妹盟約までの歩み

人口過密により満州への分村計画が立てられ、昭和19年に130戸が満州国錦州盤山に入植しました。翌年には終戦を迎え、日本へ引き揚げるようになりますが、故郷与論島はアメリカの統治下となり帰島することができません。そこで内地開拓を目指し田代大原地区への入植を決めました。

### 満州の盤山へ分村のため入植

戦時下、与論島は人口過密対策として移住を計画。二度目の移住先が満州国（現在の中国）でした。

### 敗戦後に田代大原へ入植

敗戦後、与論島はアメリカの統治下に置かれていたため帰島できず、第二の故郷を求めて田代へ。

### 田代町と姉妹盟約を締結

入植をきっかけに交流が始まり、23年後の昭和44年6月7日に、与論島で姉妹盟約を締結しました。



花火や市中パレードで島民から盛大な歓迎を受けました。式典で両町長が調印。1,000人以上がつけかけ祝賀会が行われました。

### 「少年の船」で交流が始まる

田代から52名、与論から45名の子どもたちが「少年の船」で互いの町を訪問。友好の絆を深めました。

### 姉妹盟約20周年で田代へ来町

20周年を記念して与論町から10名が田代に来町。同年に与論町で記念式典が行われ、固い握手で限らない友好と交流を確認しました。

### 錦江町と与論町が姉妹盟約締結

入植60周年となる平成18年6月7日に、錦江町と与論町があらためて姉妹盟約を締結。これまでと変わらぬ、揺るぎない絆と交流を誓って、両町長が署名しました。



姉妹盟約の式典は与論町で行われ、本町から12名が出席。パレードや与論献奉で熱い歓迎を受けました。

### 与論町と初の町職員人事交流

交流事業として職員的人事交流が行われ、本町から牧原弘弥主事が2年間、与論町へ派遣されました。

平成27年

平成18年

平成元年

昭和63年

昭和44年

昭和21年

昭和19年